

## 湊谷杯(男子) 採用「減点方式」とは

全国高校総体個人戦で1997年度大会まで行われていた方式です。

全ての選手は持ち点を5点所持し、試合ごとの内容に応じて持ち点を減点し、3試合を終えた時点で、持ち点が残っていた選手が決勝トーナメント進出となります。2試合を終えた時点で5点を失った選手は、3試合目を行うことができません。2試合を減点無しで終えた選手は3試合目を免除します。

減点は、

1本勝ち(相手選手の反則負けによる勝ちを含む):0点

優勢勝ち:-1点

引き分け:-2.5点

優勢負け:-3点

一本負け(反則負け):-4点となります。

基本的に、試合は1回戦が1番対2番、3番対4番、5番対6番・・・と対戦し、2回戦が2番対3番、4番対5番と自身の上下の選手と対戦します。

3回戦は点数が残っている選手のみで上から順番に対戦します(同所属を除く)。

大学柔道では、現在以下のような規程で大会が行われています。

団体戦:勝敗の基準は「技あり」以上、指導差は引き分け

個人戦:4分の規定時間を終えて、技によるスコアの差がない場合はGSに突入

GSは技によるスコアを得るか、反則負けになるまで継続する

本大会では、大学柔道の団体戦・個人戦両方の特徴を活かしたいと、第15回大会で男子においては、はじめて減点方式を導入しました。「ぜひ継続してほしい」というご意見を多くいただいたため、本大会も減点方式を継続させていただきます。

選手は1試合目、2試合目、3試合目と、自身の置かれる状況(所持点)が変わっていきます。その中で、どのような戦い方をしていくべきなのか、自ら考え、実践し、その結果を省みることが出来ます。

指導者の皆様は、本大会を通し、選手の強みを見出していただけたら幸いです。

湊谷杯は学生の成長のきっかけ、気づきの場であることを第一に考えています。

北信越学生柔道連盟の趣旨をご理解いただければ幸いです。